

県内プログラミング教育推進

IT企業など協議会

児童ら対象クラブ創設へ

県内のIT企業などをつくる県情報システム工業会は20日、「福井県子どもプログラミング協議会」を設立した。2020年度からプログラミング教育が小学校で必修化されることを見据え、県内に教育拠点を設けて学ぶ場を提供し、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などに対応できる人材を育成する。

プログラミングを学ぶ場をつくる事業は、総務省が本年度から「地域におけるIoTの学び推進事業」と銘打って全国からの応募を受け付けていた。同工業会がこの事業に応募し、採択されたことから、具体的な取り組みを実行していく組織として協議会を設立した。同工業会のほか、県、県機械工業協同組合、プログラミングネットワーク(PCN)、

福井大、福井高専、福井新聞社などの代表者で構成する。同日、設立総会を県庁で開き、

代表に同工業会の小森富夫会長を選んだ。

事業計画では、子どもがプログラミングを楽しく学ぶ「地域ICT(情報通信技術)クラブ」を県内6カ所程度に創設する。同工業会が11月に福井市のベルで開く「越前がにロボコン」への出場を目標に、プログラミングやロボット製作を学んでもらう。対象

は小学生が中心で、クラブ運営はプログラミングに詳しい個人や団体に依頼する計画。

同協議会は22日、クラブの運営に意欲のある人を対象とした講習会を鯖江市の「Hana道場」で開く。時間は午後1時半～同3時半で、参加無料。講習会の申し込みは、Hana道場を運営するNPO法人「エル・コミュニティ」

が電子メールで受け付けている。アドレスは、lcommunity.2012@gmail.com

(吉川良治)